



3月24日(日)の午後、日進市中央福祉センター2階多機能室で「第2期にしん幸せまちづくりプラン策定 PROJECT にしん地域福祉フォーラム 2024」を開催しました。参加者は、事務局スタッフも含めて70人でした。

前半は、「にしん支え合い・助け合いの最前線」と銘打ち、市内各地で活躍する3名の方から事例発表を聞いたあと、少人数のグループに分かれて「印象に残ったこと」「もう少し聞いてみたいこと」について意見交換。参加者同士が交流しました。コーヒブレイクを挟んだ後半は、福井県立大学看護福祉学部教授の佐野さんも交えて質疑応答&クロストーク。最後に、日本福祉大学中央福祉専門学校校長・社会福祉総合研修センター研究員の長岩さんからアフターレクチャーを聞いた後、各自「こんなことならできるかも?」を考えました。

かわらばん

1 オープニング (あいさつ)



健康福祉部 川本部長

このフォーラムは、令和6年度に地域福祉計画である「第2期にしん幸せまちづくりプラン」を策定していくにあたってのキックオフイベントです。

地域の課題は様々で、地域福祉の重要性が高まる中、日進市も地域共生社会の実現を目指し、地域全体で支える仕組みとして包括的な支援体制の整備を進めています。

令和6年度には、国の重層的支援体制整備事業を日進市も実施してまいります。



2 にしん支え合い・助け合いの最前線

事例発表①

鈴木智恵子さん

ささえあい藤塚 学習ひろば



2022年3月にスタートした学習ひろば。毎月第1・3水曜の17~19時に藤塚集会所で小中学生に学習の場を提供しています。ささえあい藤塚のおにぎり部がおにぎりや味噌汁などをつくってくれ、おいしい食べ物目当てに子ども達が集まってきています。子ども達がおにぎりづくりや配膳も手伝ってくれるようになっていて、将来は参加している子達がスタッフ側に回ってくれるといいなと期待しています。

スタッフはおにぎり部も合わせて10名程。学習指導は、教師を志す学生や元塾講師、参加者のお母さんたち。回覧板やポスティングでスタッフを募集し、社協にも学生ボランティアの紹介してもらいました。見学に来る人もいて、1度のボランティアでもいいので是非、と受け付けています。

支え合いの仕組みをつくりたい、という地域の有志が集まる場に顔を出したのがきっかけ。私は学習塾を運営しているのですが、家庭の事情で塾に通えない子どもの支援ができないかと思い、まずはやれる範囲でと始めてみました。今はまだそういう子は来ていませんが、いずれそういう子にも届けばと思っています。地元の子どもの居場所の1つになればと思って活動しています。

事例発表②

稲垣幸子さん

日生東山園まちづくりの会

日生東山園まちづくりの会は、半年間の準備委員会の協議を経て、2022年2月に設立。自治会の協力団体として登録されています。

真っ先に取り組んだのは、高齢者移動支援「わくわく号」の運行。視察、運行方法の協議、テスト運行の後、昨年3月に本格運行。停留所にいる人を乗せて日進駅南のスーパーFEELなどへ行き、滞在1時間、帰りは自宅まで送ります。運行は毎月第1・3土曜日。午後1時と2時の2便。1日平均14名が利用するため、移動支援専用車に自家用車が追走しています。利用料は、まちづくりの会協賛金として、1口1000円で2口以上/年をもらっています。メンバーは、ドライバー5名と、乗り降りや荷物運びのサポートが3名。土曜日に都合がつく人が3名しかおらず、ドライバー不足が深刻です。

その他、夏まつりや子ども神輿の手伝い、自主防災会と協働の炊き出し、愛知学院大学と社協と協働でのフレイル予防の講演と交流会、餅つき大会などをしました。現在メンバーが10名ほどなので、一緒に活動する方を増やし、会が広がっていくことを願っています。



事例発表③

居城麻希さん

歩いていけるつどいの場 坂の上 Cafe



日進ニュータウン集会所で毎月第1・3木曜の13:30~15:30につどいの場「坂の上 Cafe」を開催。平均参加者25名、スタッフ10数名で居酒屋並みの賑わいです。

きっかけは、夫が自治会長を務めたのを機に、地域のために何かできないかと思っていたところ、「つどいの場」があることを知り、老人クラブさんと会議を重ね、老人クラブの有志を中心に2017年2月にオープン。すぐに地域に浸透し、カフェをきっかけに老人クラブに囲碁・将棋・麻雀・卓球・カラオケ・eスポーツなどのサークルもできました。

コロナで休止した活動も比較的早く再開し、「誕生日ご招待券」で新たな参加者も呼んでいます。健康講座、若返りリトミック、三線と琉球舞踊の会をしたり、この2月からは、環境課と連携してフードドライブ&パントリーを始めました。また、多世代交流を目的とした「夜のほっとカフェ」も試験的に開催しました。

参加者だけでなく、スタッフが過度の負担なく楽しめることが長く続けるポイント。多世代交流の盛んな地域が防犯・防災にも効果をもたらすと思うので、少しずつ輪を広げていきたいです。

3 えんたくん*会議

*段ボール製の円卓

4~5人グループに分かれて円卓につき、事例で「印象に残ったこと」や「もう少し聞いてみたいこと」について、まさに膝詰めで意見交換！



印象に残ったこと

- ・未来の支援者を育てる
- ・夜のほっとカフェ
- ・地域のボランティア力がすごい
- ・地域に居場所があり、新しいつながりができている
- ・地域の連携が防災につながる！
- ・移動支援活動
- ・学習ひろばの楽しそうな運営
- ・フードライブ&パントリー など

4 質疑応答&クロストーク

グループから出された質問をもとに、モデレーターの加藤栄司さんと3人の事例発表者、解説の佐野治さん、の5人でクロストークしました。(以下、敬称略)

加藤：発案からどう具体化したか？会の立ち上げのコツは？

鈴木：有志の会議に来ませんかという案内を回覧板で見た。その前に全戸アンケートで、地域の支え合いで自分がしてもらいたいことや、自分ができていることを聞かれたりして、学習支援もやっているのかなと顔を出したら、「集会所は夜いつでも開いているし何かやってみたら？」となって…子どもが来るかわからないし、まずは自分1人でできる範囲でと、月2回で始めてみました。



稲垣：立ち上げメンバーは民生委員、市会議員、自治会長さんなど10人くらい。そこに、回覧板を見た私が入っていました。

加藤：仲間の輪を広げる仕掛けは？

居城：同年代の友達に手伝ってもらって、そこからその友達にと広がっている。

鈴木：去年もアンケートをし、興味がある

人に連絡先を書いてもらって連絡し、スタッフになった方も。自分から手を上げにくいけど誘われたら…と思っている人は結構いる。心の参加者は少しずつ増えていると思います。



稲垣：子ども会の会長さんなど、役の任期が終わる方にも、続けてもらえないかお願いしたりして、一人一人つなげています。

加藤：世代を超えた取り組みのコツは？

居城：顔見知りが多いので「いいからおいで〜!」と強引に誘っています。

鈴木：おもしろい人に会ったときに、子ども達も喜んでくれるんじゃないかと活動に結びつけることが多いです。

佐野：みなさんのお話を聴いていて、自分ができる、好きな活動が活動の原点。そういうものをどう集めていけるかが地域活動で重要な気づかせていただきました。

5 アフターレクチャー

講師：長岩嘉文さん

1. 地域共生社会

・誰一人取り残さない社会、つながりが生まれる社会を目指すためには…



- * 制度のはざまの問題に手を差し伸べる
- * 困った時に声を上げやすい環境をつくる（相談窓口）
- * 親身に話を聴き受け止める（断らない相談）
- * 相談がなくても早く見つけて早く対応（アウトリーチ）
- * 最初の愚痴やつぶやきレベルを聞き逃さない
- * 参加・交流の場をつくる、紹介（社会とのつながり）

2. 重層的支援体制整備事業

- ・包括的相談支援、社会とのつながりづくりの支援、アウトリーチ等の継続的支援、居場所づくりなどを一体的に展開
- ・複合的問題に対応できるよう、縦割り行政の壁をできるだけ低くする

3. ニッポン一億総活躍プラン

- ・支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成する
- ・誰にでも居場所や役割があり、「つながりのある地域」を皆でつくっていく

4. 一人ひとりができること

- ・まずは気にかける。関心を持つ、他社を理解する（相手の視点に立つ。自助や自己責任や強要はしない）、ゆるくつながる

6 市長あいさつ



近藤市長

若いうちから地域でできることを経験してもらうために、小・中学校の授業の一環として地域の助け合いに参加してもらったり、大学生が地域活動サークルをつくって老人会の企画に関わってもらったりできないかなと思いました。地域みんなが課題を解決していくまちにしていけたらいいなと思います。

ちいさな行動宣言

- 見守り、声かけ、あいさつ！
- 無関心→一歩前に踏み出します！
- 小さな居場所づくり、多世代の友達づくり！
- 勤務先で障害者が安心できる居場所をつくる！
- 精神障害の人達が楽しめる活動をします！
- 安心して認知症になれる地域づくりを仲間と目指す！
- 今やっている活動をあきらめず、粘り強く続ける！
- 困った時の窓口になれるよう努力します！
- お絵かきや工作やものづくりのお手伝い！
- 「困った人」と少しでも同じ視点に立とうと思います！
- ささえあい藤塚の活動に関心を持ち、心の中で応援します。そしてもう少し時間ができたら必ず参加します！

わたしこんなことならできるかも？

ひとことアンケートより

たくさんの方が日進市で助け合いの活動をされていることを知り、とても興味深かった/いい支援がいい支援者を作るとい言葉が胸に響きました。地域で自分ができる小さなことが、共生や将来の地域づくりにつながるのだと思いました/共生の重要性、実際に膝を突き合わせて話し合うことの重要性を改めて実感した ほか

お問い合わせ：

日進市 健康福祉部 地域福祉課 福祉政策係

TEL : 0561-73-1643 (ダイヤルイン)

FAX : 0561-72-4554

E-mail : chiikifukushi@city.nisshin.lg.jp